

“はらはちぶんめ” No. 16

2011/7/11(月) 発行・文責 理事長 長塚徳久

※「はらはちぶんめ」は、おおらかに、ゆとりを持ってのびのびとこうよ、という願いからつけています。

【おやつ時間は・・・】

なんの箱でしょうか??



ここは、
「スナック類」です。

おやつが入っている箱です。三種類の箱があり、そこから一つずつ、計3つのおやつを子どもたちは選びます。

【おやつのルール(決めごと)】

- ①手洗いをしてから。
- ②「宿題が始まる時間」までにおやつの時間は終わる。(五時間目までと六時間目まででは異なる。またその日により流動もある。)
※学校で居残りとなっている場合は別ですが、遊んで帰ってこないときや、道草をして遅れた時はおやつは渡しません。きちんと帰ってくるというルールを守らせるための一つとしてこのように決めています。(学校⇒学童の時間帯が一番心配(安全面)だからです。)
- ③居残りなどで帰ってくる時間がかかり遅い時は、おやつは持ち帰りさせられる場合もあります。(夕食への影響を考えて。)

ちょっと小さめのお菓子
(表現が下手ですみません。)

「あめ」
でございます!



(少林寺拳法の稽古より)

今日もリレーをやってみました。

長坂(43歳)も走りました。

まだ小学生には負けなかな。

この前、欠席だった子もいたので、一人一人の走り方を確認したかったです。

予想以上にすごく速いのが、Aとくん(他の子どもたちも、Aと速い!と。四年生)

予想通り速いのが、Rとくん(サッカーでも活躍中。六年生)

そして、今日で長坂がお気に入りになった走りを見せしてくれたのは、まだ8級のMもちゃん。三年生。

学童にも来ているので、運動能力が高いのはわかっていたし、速いのも知っていました。

しかし、その予想を上回るナイスな走り。

かなりいい感じでした。

Mもちゃんのおばあちゃんはこのブログを見てくれているとお聞きしたことがあります。

おばあちゃん、Mもちゃんの走りは最高です(。)

M花ちゃんのこと。

たいていの方は、長坂が「少林寺拳法の先生」と聞くと、「えっ、見えないですね・・・」とか「本当に武道できるんですか?(笑)」と。なので、一応の証拠写真。



17歳の時。余裕で蹴っております。



41歳の時。かなり無理して蹴っております。(汗)



たとえば、ウェイトトレーニングのベンチプレス。

これ以上上がらないという重さ。

そんなときに、シャフトの真ん中をヘルパーが指ではさんで(ふれているだけぐらい)、一緒にあげるようにしてやると、その重さも上がってしまうことが多いらしい。

それは人間が、心理的限界を先に作ってしまっているからだ。

そもそも、指導者とは、生徒のその心理的限界を外してやるのが役割だと思う。

それができれば、いい指導者なのだろう。

成果主義に陥る指導者は、自分自身の発言や指導内容がその生徒の心理的限界を作っていたり、狭くしたいしていることを考えてみる必要がある。

「大丈夫だよ!」

「君ならできる!」

「それでいいんだよ!」

「前より良くなってるよ!」

生徒に「ポジティブになれ!」と言っている指導者は、恐らくネガティブな指導をしているのだろう。

ポジティブになれと言われて、なれるなら指導者は必要ない。

ポジティブになれる環境を整えてやる。それが一番の指導。環境は多くの場合、指導者の「言葉」と「表情」によって作られていくと考えてよい。

「ネガティブワードによるバッドパフォーマンスルーフ」

反対に、

「ポジティブワードによるグッドパフォーマンスルーフ」

ルーフ、循環なのでどこかで入れ替えるだけで大丈夫。

どこで入れ替えるか?

それは指導者自身が入れ替えるのだ。

何を入れ替える?

自分自身が発する言葉と表情を入れ替えればよい。

入れ替えれば、それがルーフしていく。